

# 紙版 ハコブネ×ブックス vol. 7

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



## かならずお返事書くからね

I WILL ALWAYS WRITE BACK.

作者 ケイトリン・アリフィレンカ  
マーティン・ギャンダ  
リズ・ウェルチ  
翻訳者 大浦千鶴子  
出版社 PHP 研究所  
発行 2018年3月  
ISBN 978-4569787329



ペンシルバニア州の郊外に暮らす少女、ケイトリンが学校の課題で文通することになったのは、アメリカのジンバブエに住む少年、マーティン。二人は趣味や家族の話をして、楽しく手紙を交換していました。しかし、まだ十二歳のケイトリンは自分の生活の豊かさや、マーティンが手紙の切手代を捻出する大変さにも気づいていなかったのです。政情不安と経済危機により父親は収入を得られず、学費の高騰からマーティンは学校に通えなくなり、自分の貧しい生活を知られなくなりました。マーティンが、ついに本当のことを伝えた時、無邪気なケイトリンにこれまでの世界観を揺るがす気づきが訪れます。地球を半周した場所にいる友人を思いやるのがこの世界へのまなざしを変えていく。真摯な二人の友情と大きな善意に感銘を受ける真実の物語です。

## 特集

# お手紙ください (メールも可)

遠隔地に住む見知らぬ同士が偶然のきっかけから交流を始める。そのコミュニケーションツールが手紙からメールやSNSへと移りつつあるのは時代の趨勢ですが、自分だけに宛てて紡がれた言葉を受け取る喜びには変わりがないものと思います。ネット全盛の時代とはいえ、意外にも手紙を題材にした物語は健在です。境遇の違う二人が、言葉だけを頼りに心を通わせていく。見知らぬ相手と気持ちを通じた時の喜びは、やはり大きなものです。物語は手紙やメールの文面には書かれない思惑や葛藤も描いていきます。返事がこないことで相手の無事を心配したり、怒らせてしまったのではないかと勘ぐったりする心のドラマもまた魅力的です。紹介する四作品は、表紙のイメージ通り、同じ年頃の男女が文通をする物語です。それぞれ違う方向を見ているけれど、その視線の先には同じものが見えている。そんな手紙ロマンを満喫できる本なのです。



## あした飛ぶ

作者 東田澄江  
出版社 学研プラス  
発行 2017年10月  
ISBN 978-4052046957



大分県姫島に住む小学六年生の女の子、星乃のクラスでは、担任先生の指導で長距離を移動する蝶「アサギマダラ」の調査に取り組んでいました。捕獲して羽にマーキングした後再び放つことで、その移動経路を明らかにする試みです。星乃が捕獲した一頭の羽には既にマーキングが施され「ナガノ」と「リュウセイ」の文字がありました。このメッセージを受け取った星乃は、お祖母さんの協力で長野に住むリュウセイを突きとめ、同じ小学六年生であった彼と手紙を通じて交流していきます。はるか長い距離を旅する蝶の羽に寄せられたメッセージが人と人とを結んでいく。アサギマダラのエピソードを縦軸に、父親を事故で失い心を塞いでいる星乃の悲しみが横軸となつて物語は織り上げられていきます。星乃の葛藤を越えて訪れるハッピーな結末に莞爾とできる作品です。



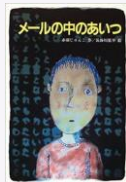
## 手紙 ふたりの奇跡

作者 福田隆浩  
出版社 講談社  
発行 2019年6月  
ISBN 978-4065155813



長崎に住む小学六年生の耕治に届けられた見知らぬ少女からの一通の手紙。差し出し人の穂乃香は秋田に住む同じ小学六年生。亡くなった祖父のことを書いて大きな賞をもらった耕治の作文を読んだという彼女は、耕治を見込んで頼みたいことがあるといます。あえて手紙でやりとりをするペンフレンドになった二人。それぞれ家族を亡くしたばかりの耕治と穂乃香は、虚無的な気持ちに沈みながらも、互いに励まし合い文通を続けていきます。穂乃香の亡くなった母親が高校の修学旅行先の長崎で遭遇した奇跡のような出来事とはなにか。謎を解きながら真摯な対話を続ける二人の心が結びついていくプロセスが麗しく、生きる時間の素晴らしさや人生の喜びを証明しようとする少年と少女が懸命に心の交流を続ける姿は、清新な感覚にあふれています。

## 特集 お手紙ください (メールも可)



メールの中のあいつ  
(赤羽じゅんこ)  
文研出版 2000年

二十世紀最後の年。Eメールが子どもたちにも普及しはじめた頃にはバスケット部で活躍するクラスの人気者でも、本当の自分は何者なのか。シラノ・ド・ベルジュラックの昔から、正体を偽った文通は背徳のロマンです。そんな作品もありました。サイトの特集も、是非ご覧ください。

## 瓶に入れた手紙

A BOTTLE IN THE GAZA SEA..

作者 ヴァレリー・ゼナッティ  
翻訳者 伏見操  
出版社 文研出版  
発行 2019年4月  
ISBN 978-4580823891



終わることのないイスラエルとパレスチナの紛争による悲劇。エルサレムに住むイスラエル人の十七歳の少女、タルは、自爆テロによって罪のない人々が被害に遭うことに胸を痛めていました。誰か意見を交わしたくなつた彼女は、メールアドレスを書いた手紙を瓶に入れ、パレスチナ自治区のガザの海に投げ入れます。果たして、返事をくれたのはガザマンと名乗るパレスチナ人の青年でした。イスラエルに封鎖され経済が崩壊したガザ地区に住む彼の憎悪をこめたメールにも怯まず、自分の思いを伝えていくタル。戦争について、互いの国の未来について話をしたい。タルの思いは確実に彼にも届いていきます。敵国の相手と通じたらスパイ活動とみなされる緊迫した情勢下で言葉を交わす二人のシリリングな文通が始まります。

## 紙版「ハコブネ×ブックス」vol.7

2019年12月1日発行 ● 発行人 きむらともお

事務局会社員。趣味で児童文学紹介サイト ハコブネ×ブックス (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter  
連携しています。

© tomoostretch